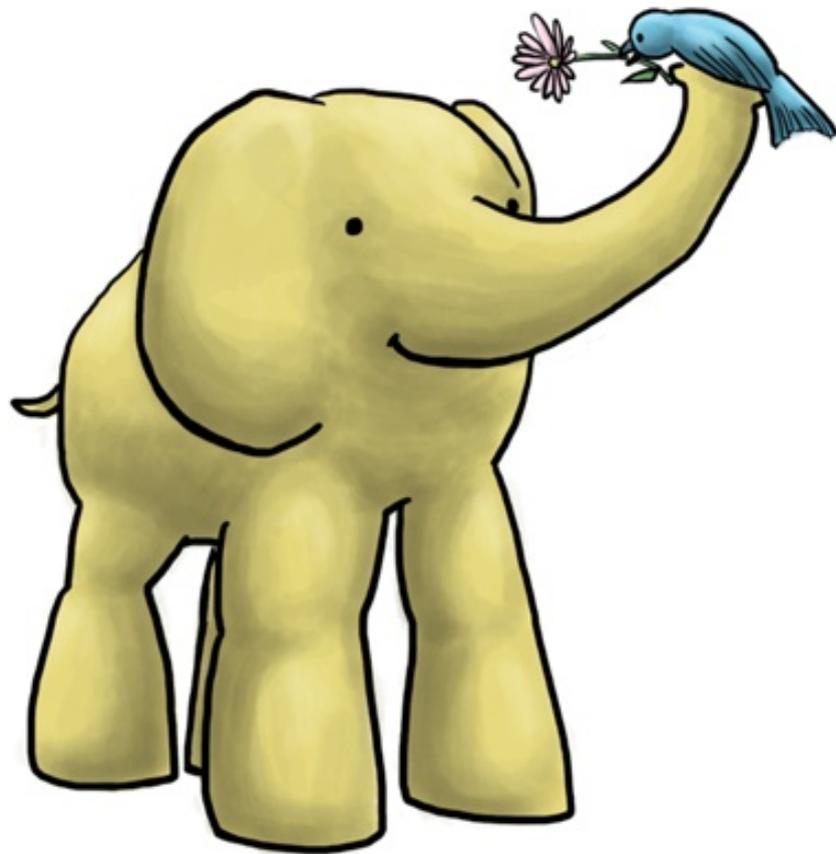
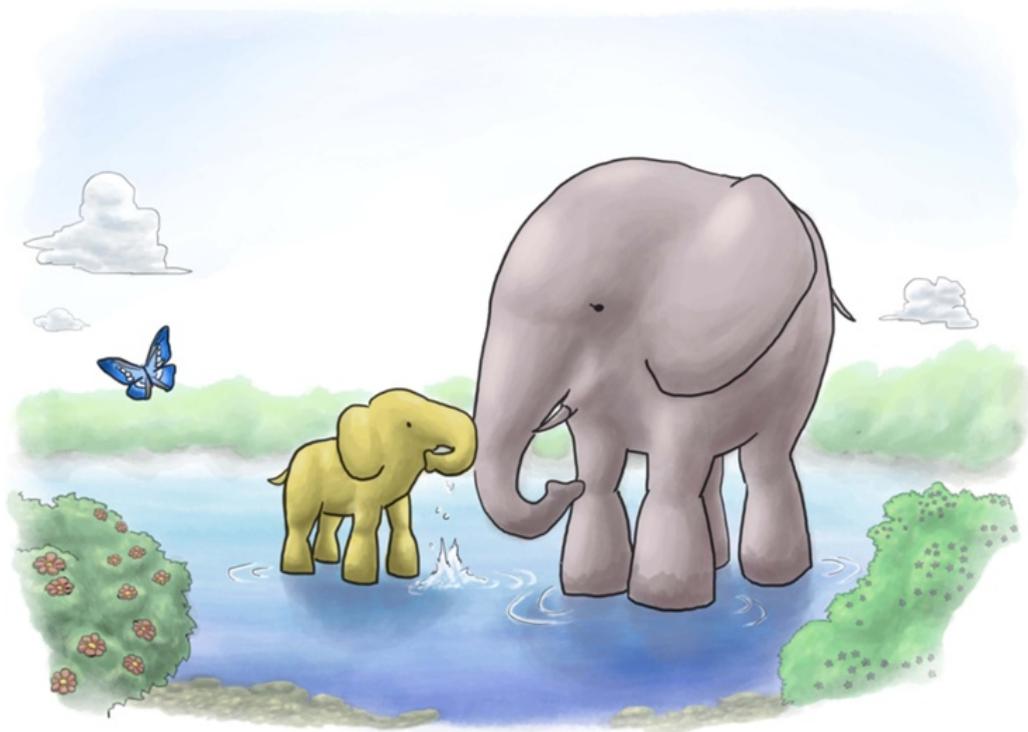


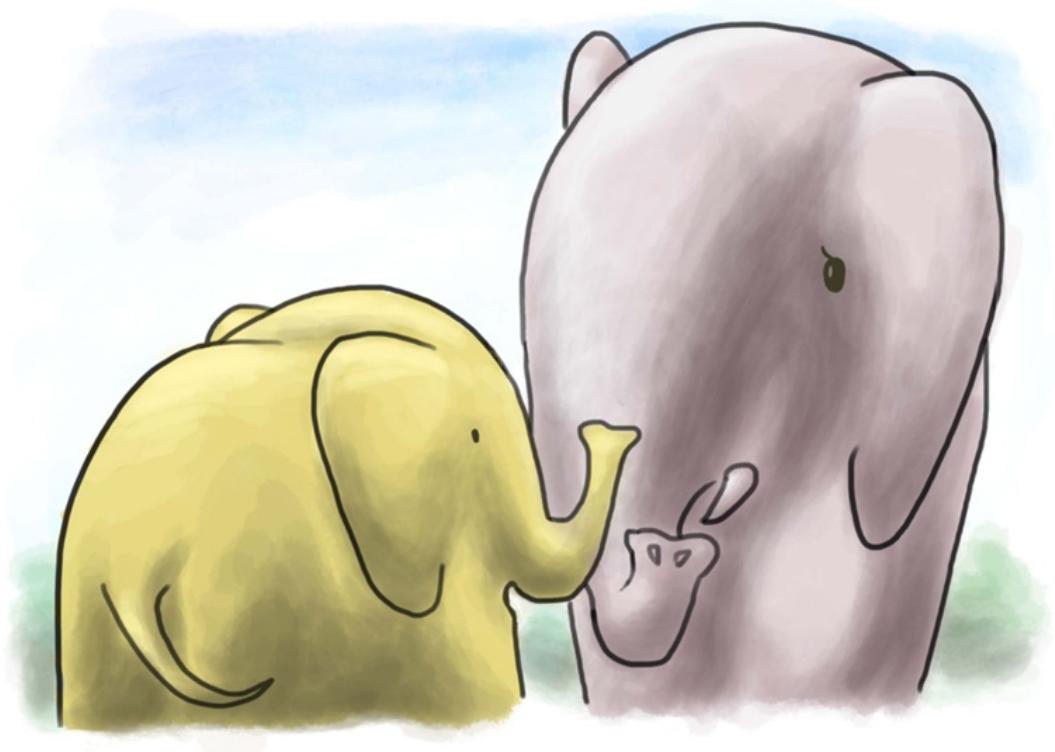
どうして僕は、  
生まれて来たの？

作・絵 にしざからいと



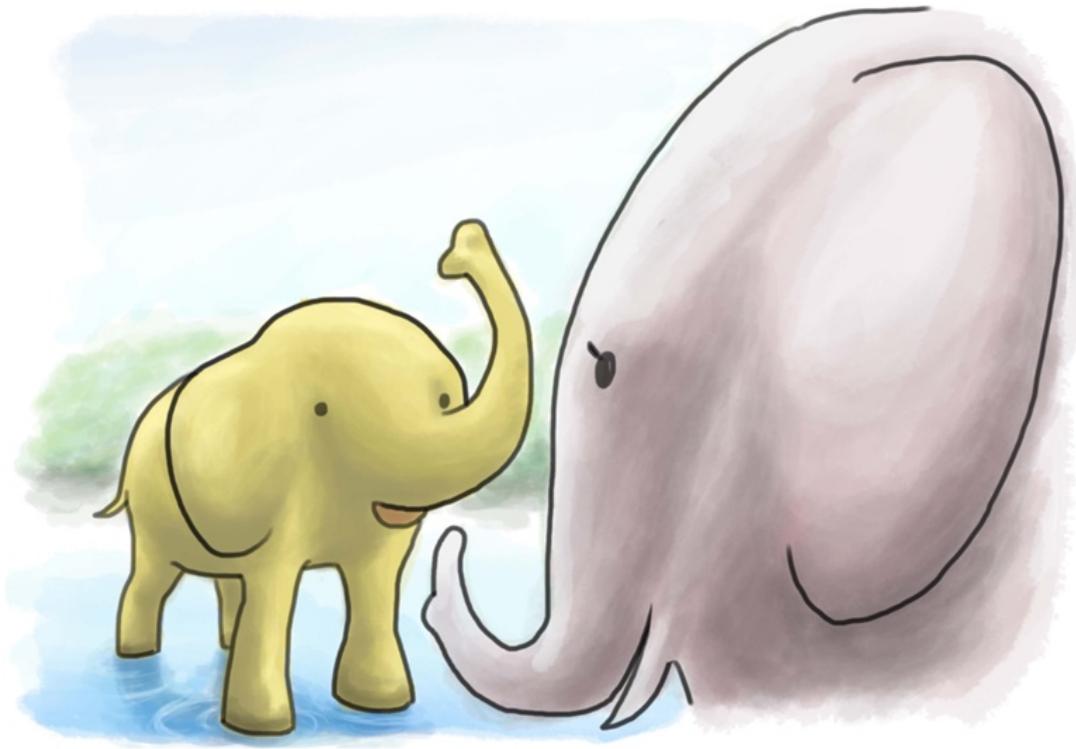


小さなゾウは母さんゾウにたずねました。  
「どうしてぼくは、生まれて来たの？」



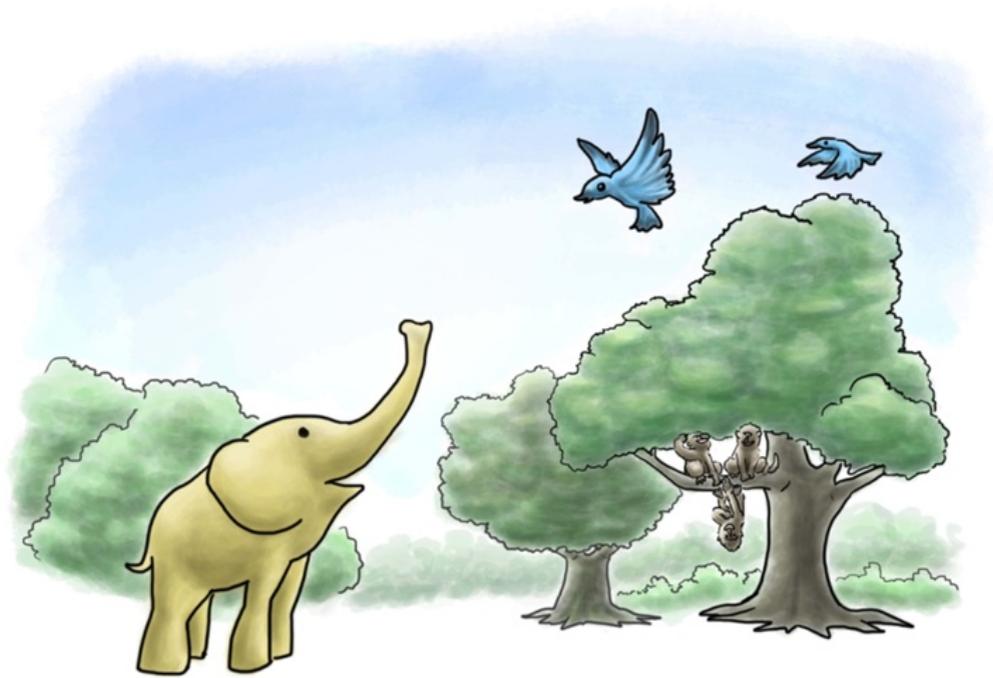
母さんゾウは答えます。

「あなたが生まれて来たのはね、  
いっぱいいっぱい幸せになるためよ」  
小さなゾウはさらにたずねます。  
「母さんはどうして生まれて来たの？」

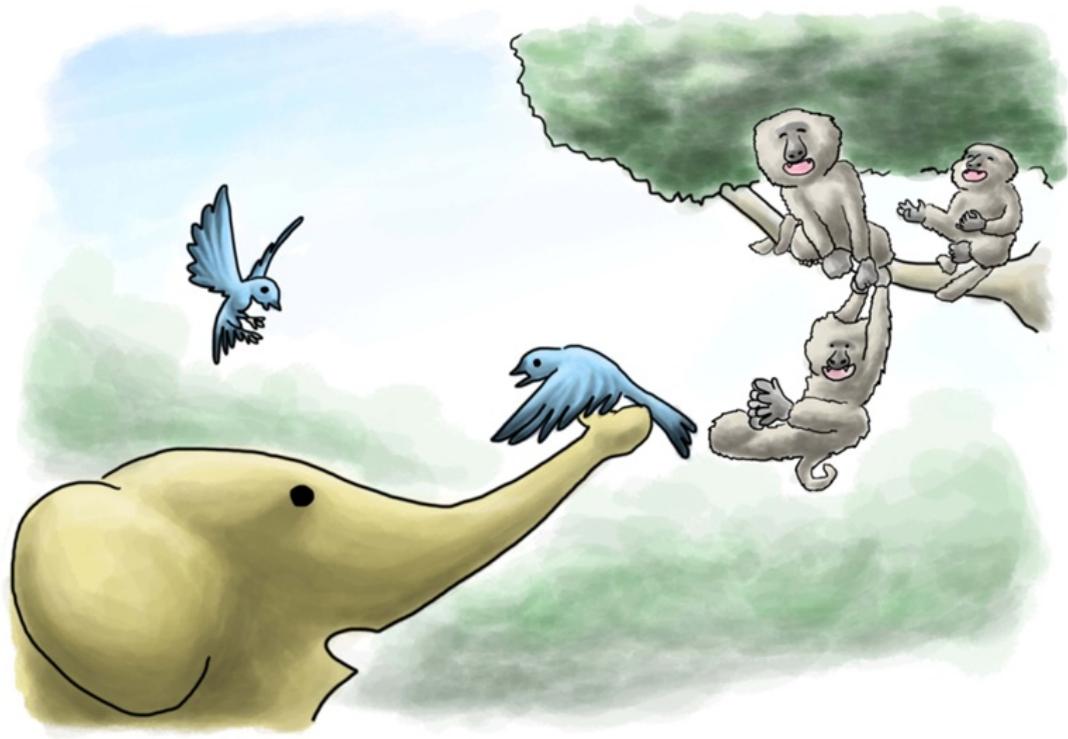


母さんゾウは答えます。

「そうね、あなたを生んで幸せになるためかしら」  
小さなゾウはとても幸せな気分になりました。



小さなゾウはもっと知りたくて、森の仲間達に聞いてみました。



「どうしてきみは、生まれて来たの？」

ピヨピヨさえずる小鳥達は答えます。

「素晴らしい歌を歌うためさ」

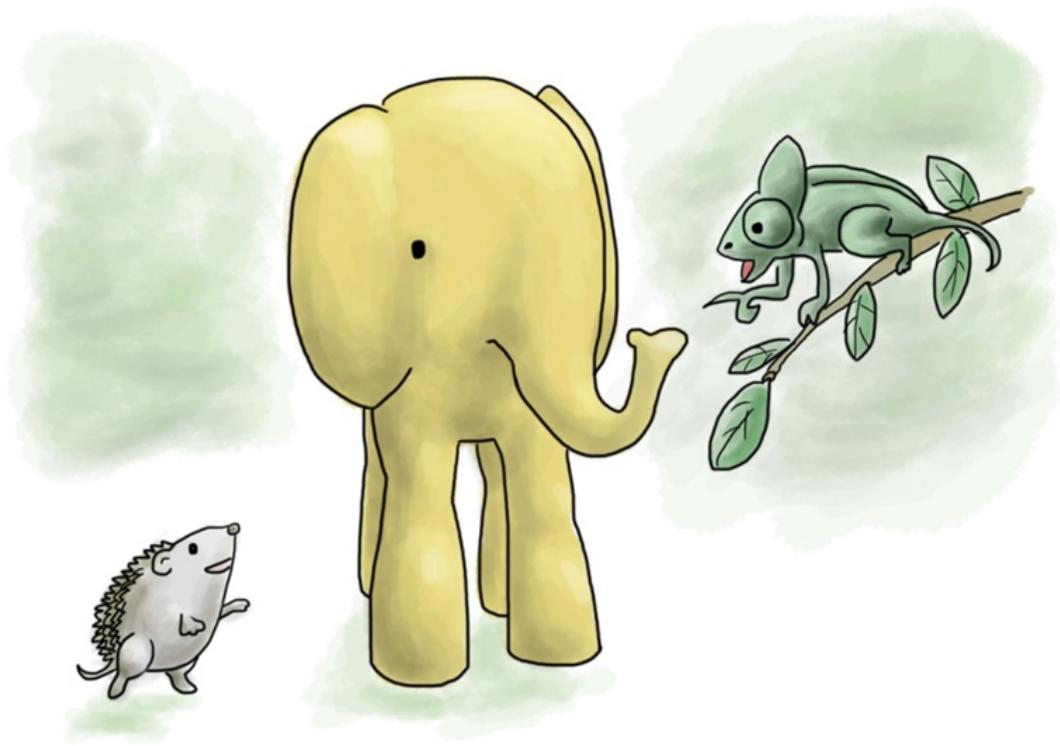
冗談を言って大笑いしているヒヒは答えます。

「大笑いして気持ち良くなるためさ」

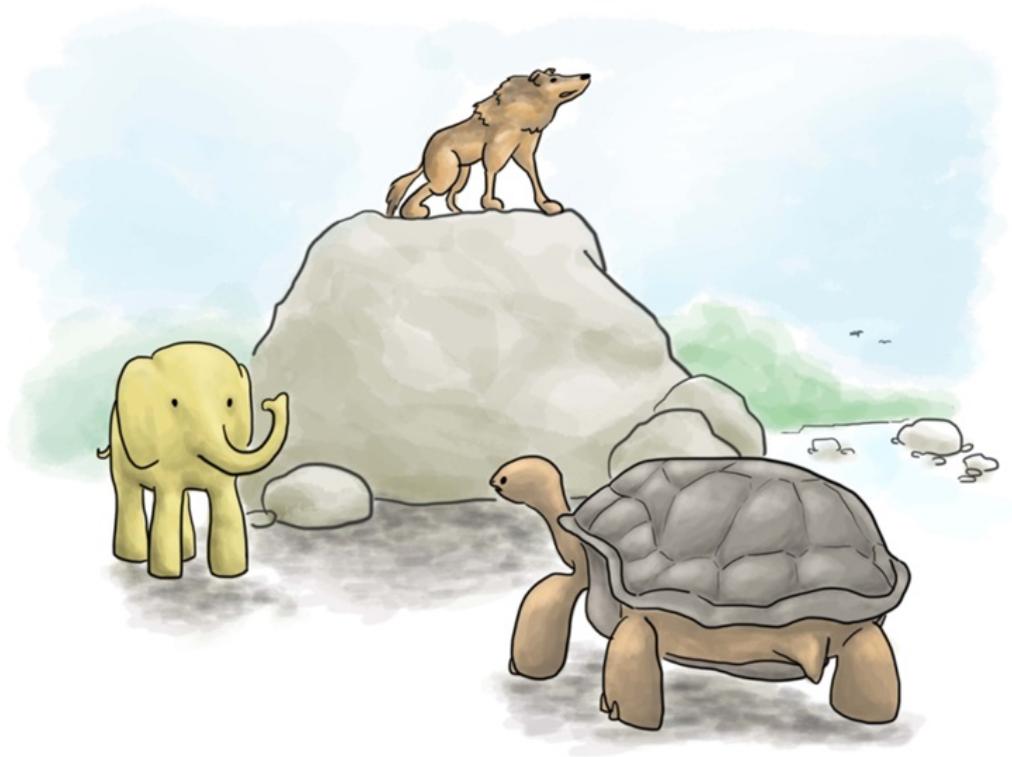


「どうしてきみは、生まれて来たの？」  
眠ってばかりのナマケモノはぼんやりと答えます。

「夢見心地に暮らすためさ」  
賭け事に夢中のハイエナ達は答えます。  
「ギャンブルで勝つためさ」



「どうしてきみは、生まれて来たの？」  
恋に夢中のハリネズミは答えます。  
「本当に愛する人と出会うためさ」  
深心深いカメレオンは答えます。  
「神にすべてを任せ、すべてを捧げるためさ」



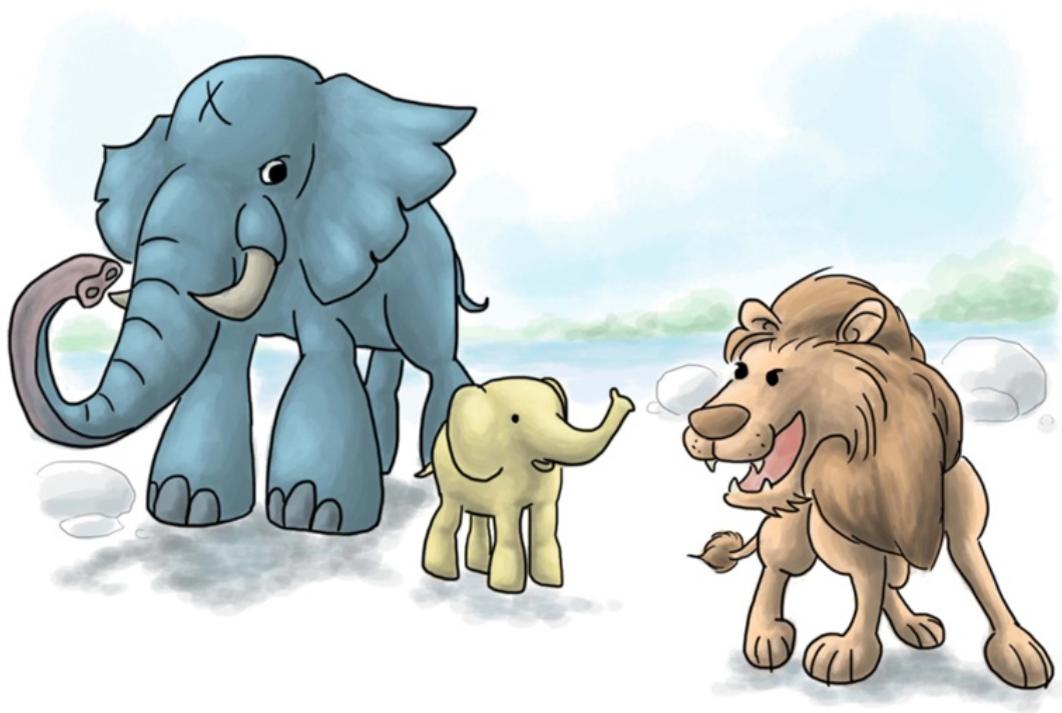
「どうしてきみは、生まれて来たの？」

寂しがりやの一匹狼は答えます。

「俺もそれが知りたくて、探しているところなのさ」

年老いたカメは答えます。

「答えを求めるのは、己の中に不安があるからじゃ」



「どうしてきみは、生まれて来たの？」

誇り高いライオンは答えます。

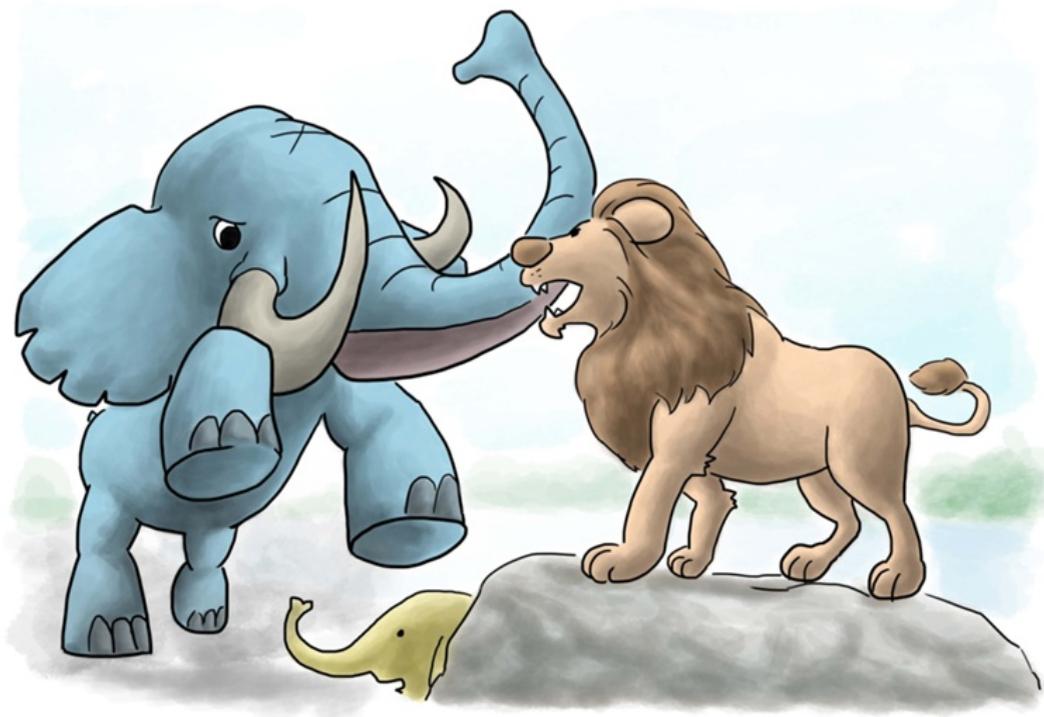
「すべての王となり、すべてを手に入れるためだ」

大きな牙の大きなゾウは答えます。

「仲間のため盾となって戦う、名誉と誇りのためだ」



ライオンは大声で叫び出しました。  
「お前達！ 今日からオレ様がこの水場の王だ！ すべての生き物  
はオレ様に従え！  
そうすれば永遠の平和を与えてやろう！」  
森の仲間達はライオンの言葉にとまどいました。



そこへ、大きな牙の大きなゾウがやってきました。

「ワシの仲間は、お前のしもべではない！」

ライオンは大きなゾウに言いました。

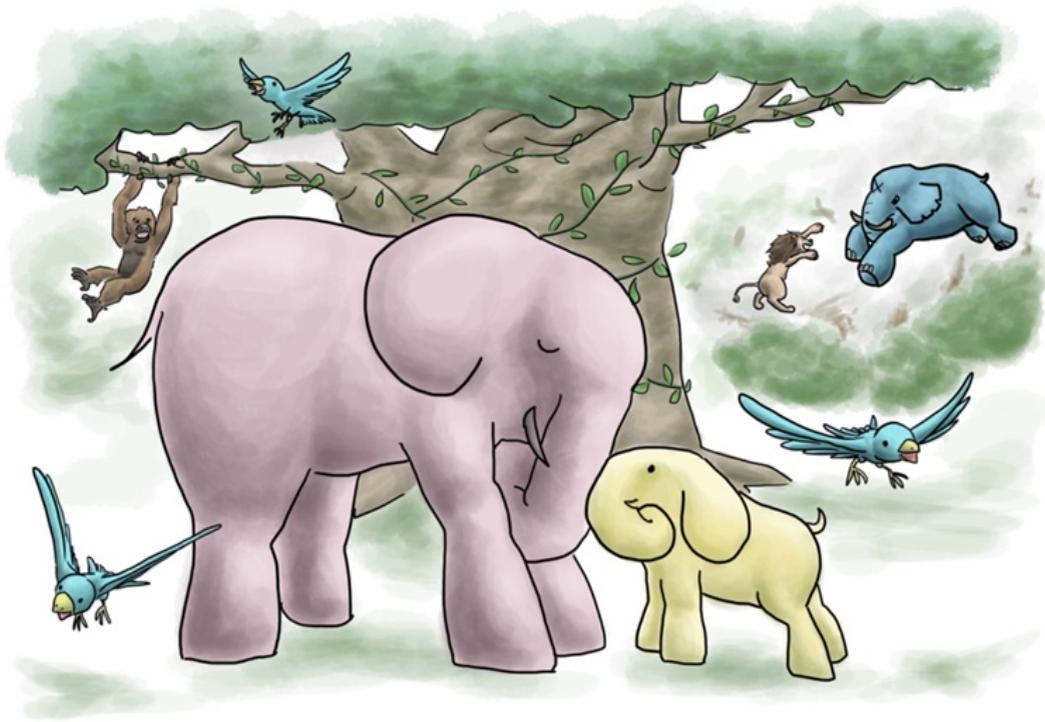
「オレ様に逆らうとどうなるか見せてやる！」

そしてとうとう、大きなゾウとライオンは

取っ組み合いのケンカをはじめました。



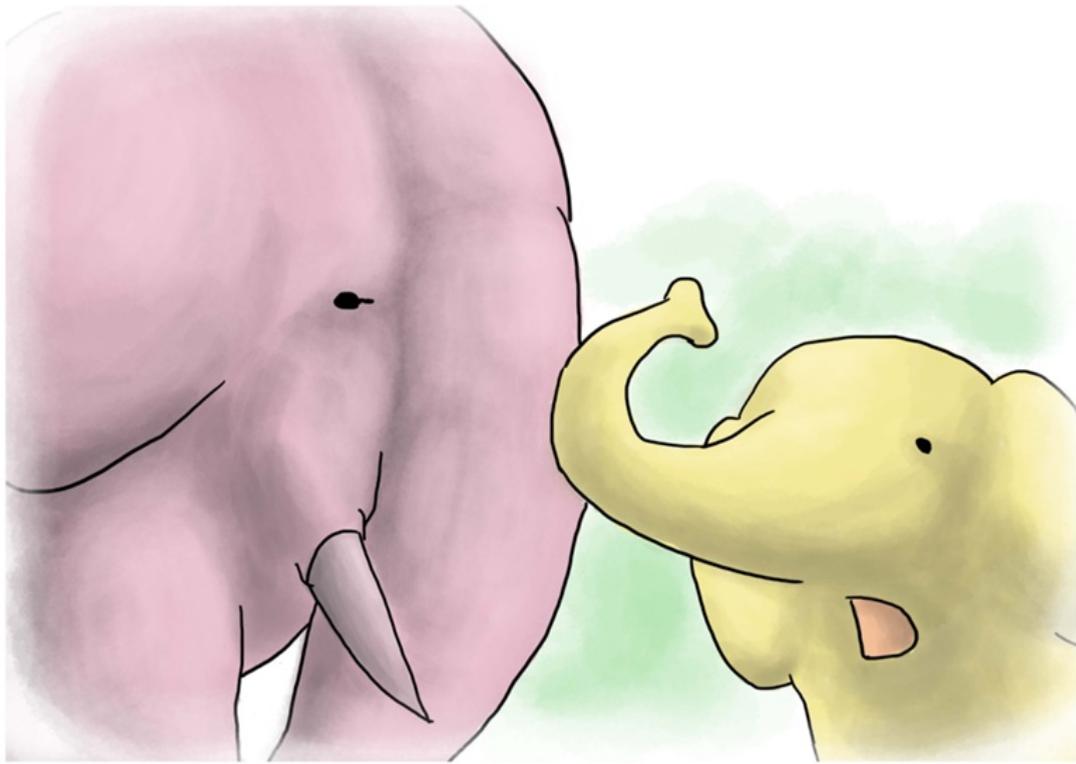
あまりのケンカのすごいこと、  
木はつぎつぎとなぎ倒され、一面に土ぼこりがあがりました。  
森の仲間達は大迷惑です。



その様子を見た小さなゾウはとても悲しくなりました。

そして母さんゾウにこうたずねました。

「どうして仲良くなれないの？」



母さんゾウは答えました。

「お互いに、自分が幸せになることに必死なのね・・・」

小さなゾウはそれを聞いて考えました。

そして、とても大事なことに気がつきました。

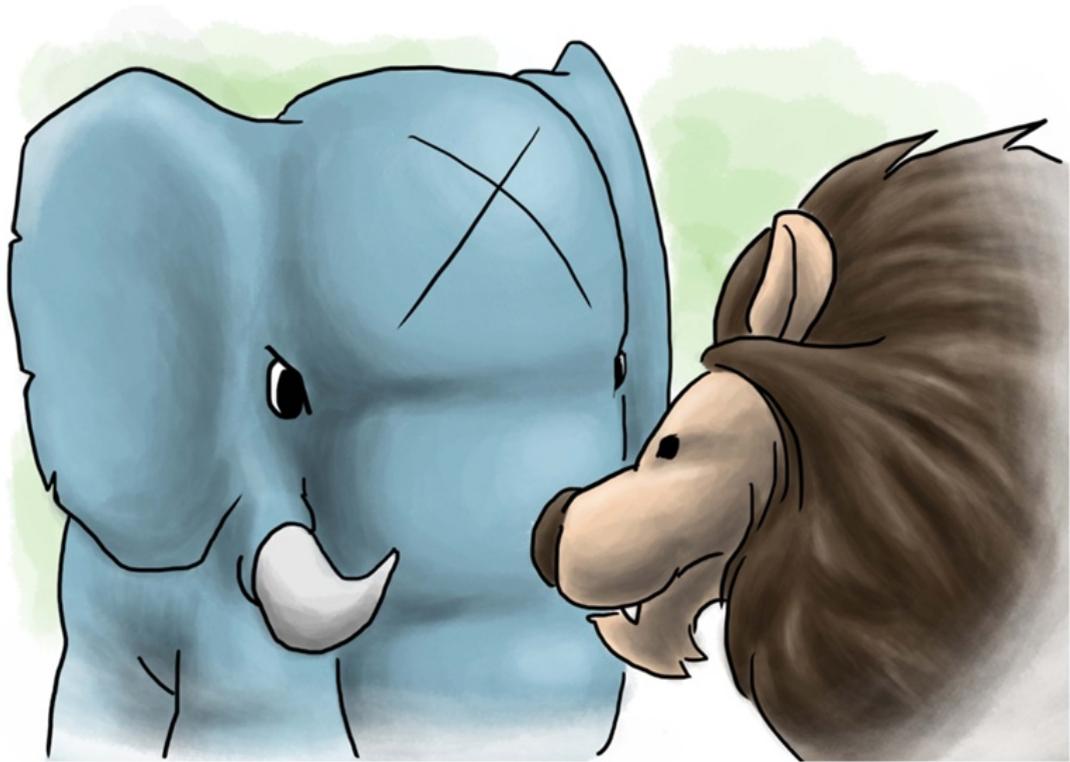


小さなゾウは大きな声で言いました。

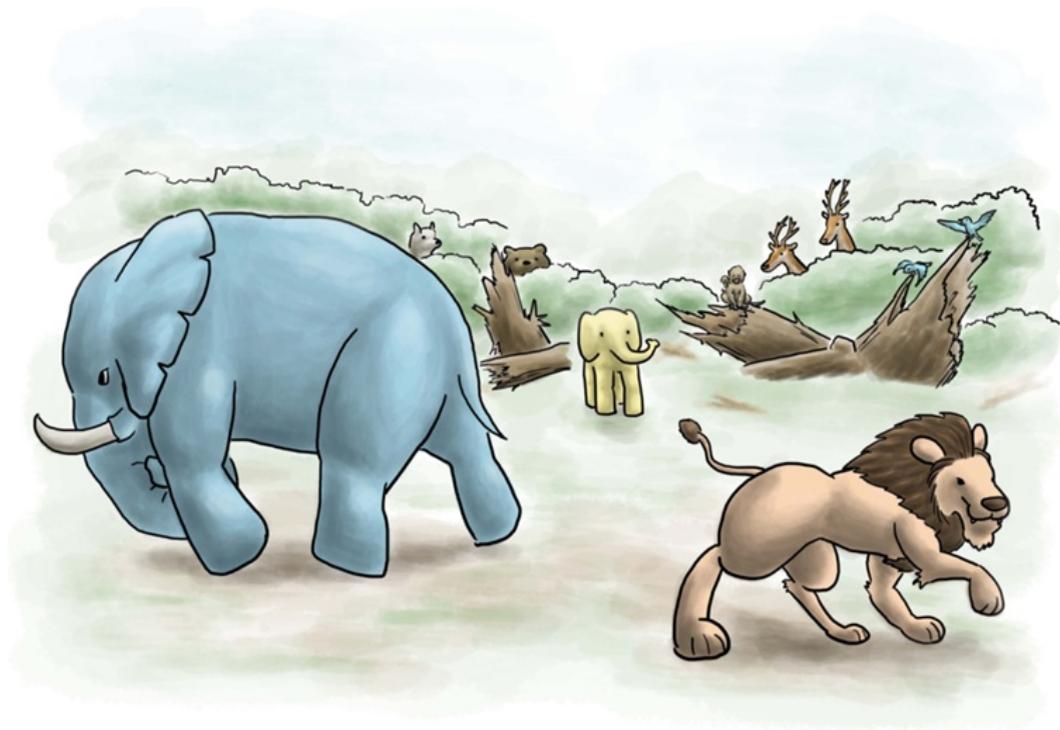
「ぼく、みんなが幸せになる方法を思いついたんだ！」  
大きなゾウとライオンは小さなゾウに耳をかたむけました。

小さなゾウはさらに言いました。

「それはね、目の前にいる人がどうしたら幸せになるのかを  
考えてあげることだよ！ そうしたらみんな幸せになれるよ！」



それを聞いたライオンと大きなゾウは、お互いを見つめ合いました。  
そしてしばらく動かなくなりました。



じっくりと何か考えた後、  
お互いが別々の方向へ歩いて行きました。  
小さなゾウと森の仲間達はそれを見てほっと一安心しました。



それからしばらく、森は平和を保っています。  
小さなゾウは今日も考え続けています。  
「どうしてぼくは、生まれて来たのかな？」

おしまい

## どうして僕は、生まれて来たの？

著者：絵本・映像作家にしざからいと  
ウェブサイト：<http://nishizakaraito.jimdo.com/>

感想はこちらのコメントへ  
<http://p.booklog.jp/book/60524>

ブックログ本棚へ入れる  
<http://booklog.jp/item/3/60524>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー (<http://p.booklog.jp/>)  
運営会社：株式会社ブックログ